

功 勞 賞

松本 普氏 [元サーモエレクトロン株式会社, 理学士]



松本 普氏は、1963 年 3 月立教大学理学部物理学科を卒業、同年 4 月日本分光株式会社に入社後、直ちに朝永振一郎博士が所長を務めていた東京教育大学光学研究所分光部門工藤恵栄研究室の受託研究員として派遣され、1 年間、光学およびエレクトロニクス研究に従事した。その後 1964 年 4 月より 2 年間、理化学研究所の江副博彦主任研究員が主宰する電子計測研究室の受託研究員として扇形磁場型質量分析計および超高真空系の設計製作に従事した。

1967 年 4 月より日本分光株式会社研究開発部に配属され、日亜化学工業株式会社等に採用された電子衝撃蛍光光度計やヘリウム共鳴線用直列キャピラリー光源の開発研究に従事した。また東京大学物性研究所の長倉三郎教授と共同で半球型電子エネルギー分光器の開発も行った。

1974 年 4 月日本分光株式会社海外事業部次長に就き、同部長を歴任した後、ジャスコインタナショナル株式会社システム機器事業部長（取締役）に就任した。

日本バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社常務取締役（1982～1987 年）を経て、1987 年 8 月フィガンマット・インスツルメンツ社の代表取締役に就任。Nier 型二重収束磁場型質量分析計をはじめ、多数の質量分析計をわが国に導入した。特に、磁場型質量分析計の得意分野である同位体質量分析では、生物地球化学、同位体生態学の和田英太郎教授（元京都大学）らへの研究協力をを行い、和田教授が、現在の地球環境問題と密接に関わる地球生態学を発展させるための支援を行った。同社の沿革に伴い、サーモクエスト株式会社代表取締役（1995～2003 年）、サーモエレクトロン株式会社代表取締役（2003～2006 年）を歴任した。その間、アプリケーションスタッフやサービススタッフの育成に尽力し、トレーニングコースを充実させるなど顧客サポートの向上を図り、わが国の質量分析計ユーザーのボトムアップを重視した企業経営に努めた。2006 年 3 月同社を退職。

松本氏は、日本国内のみならず国外の優れた研究者との交流も盛んで、biological mass spectrometry 関連では Donald F. Hunt 先生、James A. McCloskey 先生、また基礎研究については R. Graham Cooks 先生、Fred W. McLafferty 先生、最近では電子捕獲解離 (ECD: electron capture dissociation) の研究で知られる Roman A. Zubarev 先生等、常に最先端の研究者を日本の研究者に紹介、セミナー、講演会等の開催に尽力するなどわが国の研究者との交流を促進してきた。わが国の多くの研究者が松本氏のこうした支援のもと、世界的に優れた研究者と接することによって刺激され、成長したと言っても過言ではない。

松本氏が質量分析メーカーの社員として日本国内外で販売した質量分析計の数は夥しいが、装置そのものというよりその背景にある学問的意義、技術的意義について深い造詣をもち、学際的な研究者交流の実現に努めるなど、その姿勢は単に分析機器を販売するという装置メーカーのベンダーの立場を超えていた。ベンダーでありながら、常に技術者の立場から日本の質量分析学を見つめ、支援してきたと言っても過言ではない。「技術とは何か」、「科学とは何か」、「その中で質量分析学の方向性とは」。松本氏の熱弁に感銘を受け、刺激された研究者、技術者も数え切れない。

以上のように松本氏は 42 年の長きにわたり、企業人の立場から質量分析の最前線を歩み、日本の質量分析学を支え、質量分析の進歩発展および普及に寄与してきた。よって 2009 年度日本質量分析学会功労賞に相応しいと認められた。

(日本質量分析学会表彰委員会)